中

人の世の凡ての何ぞはかなき。 草木すら時に悲歌を嘆ず、 永れごう の 時 髪 の流れの尽きざるに

懐かしき友よ、

彼の寮を思ひ浮べて心静かにかのようなものが、ころしず

「別端り

の歌」を奏でん。

星永遠に流れては 高遠を誇る自治寮よ

春 秋 逝きて帰らぬ春風を

これ先人が夢の跡かな 恨む今宵の若草 上袁

秋ここに二十六

強く正しく友よ生きなむっぽんだ

そ

1の宿居!

は知らねる

ども

手折りて結ぶ友垣が 原始の森に咲く枝を 原始の森に咲く枝を たまります。 ともがま たまりなし、 たまりでは誰そ 光る瞳は幸福星かびか ひとみ アストラ ゆ る生命のかがり火に

尽きぬ名残の涙する 誓ふ心の酒杯に 降る苦難をともにせん り、 吾 始 れっょ

今宵限りのこの宴かなこょいかぎ